

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	81	学校名	県立浜名高等学校	校長名	山崎 裕子
------	----	-----	----------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	生徒の主体的な学習態度の育成による学力の向上	各教科における単元の目標や評価基準等が明確だと答える生徒85%以上。	答えた 生徒 80.3%	B	単元の目標や評価基準等の説明を行うように職員の共通理解を図った。今後は、よりわかりやすい形で生徒に伝わるような取組をしていく。
		授業は分かりやすく、教え方に工夫があると答える生徒85%以上。	答えた 生徒 83.8%	B	多くの教員がICT活用とともに教え方の工夫を行ってきたが、わずかながら目標の達成とらなかった。 今後もさらなる授業改善のための校内取組を行っていく。
		授業で端末を十分に活用していると答える生徒90%以上。	答えた 生徒 86.3%	B	授業で端末を使うこと自体は生徒全員が行うことができているので、効果的な活用の啓発をより進めていきたい。
		到達度テストにおける各教科の正解率65%以上。	1年生 国語 64.3% 数学 72.9% 英語 71.8% 2年生 国語 60.4% 数学 47.6% 英語 51.4%	B	3教科の正答率は1年生69.7% 2年生53.2%であった。昨年度が1年生65.8%、2年生51.4%であり、成績の向上がうかがえる。今後も引き続き、主体的に学習ができるようにしていく。
	生徒の主体的な進路決定意識の育成による進路実現	大学入学共通テストの各教科平均得点率50%以上。	自己採点 国語 55.4% 数学 46.2% 英語 52.8% 地・公 55.9% 理科 46.8%	B	共通テスト模試、冬季勉強会、食前実践演習などを適切に行った。新課程内容の入試の1年目ということで、教科の難易度にはばつきがあり、目標達成に今一步であった。 次年度は、新課程の問題研究を深めていきたい。
		自らの目標に向けて、努力と挑戦を継続していると答える生徒85%以上。	答えた 生徒 81.8%	B	多くの生徒が個々の目標達成のため積極的に努力しているので、その姿勢を後押しするとともに、さらに進めることで目標達成に向けて努力していく。
		第3学年6月までに「未来創造企画書」が完成している生徒100%。	完成した 生徒 100%	A	進路課職員の指導の下、指導とスケジュール管理をした結果、全員が完成させることができた。

		進路に関する情報提供・指導助言は適切であると答える生徒80%以上、保護者70%以上。	答えた 生徒 89.3% 保護者 72.8%	A	本校職員だけでなく、外部講師等も招いて適切な時期に適切な情報が提供できるように注力した。進路課職員による SNS 校内サイトを利用した研修会や体験学習等の情報提供も昨年に引き続き行っている。
--	--	--	------------------------------	---	---

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
イ	探究的な学びの組織的な検討、及び具体的な実践プログラムの構築	探究活動実践プログラムの策定。	策定をすることができた。	A	探究室長を中心に策定することができたので、次年度以降、内容の改善や効果的な修正をしていく。
		課題発見力及び課題解決能力を高めることができたと答える生徒85%以上。	答えた 生徒 83.4%	B	あと僅かで達成であった。来年度以降は、探究的な学びを学校として強化していき、達成状況の上昇に努める。
ウ	質の高い教育活動の展開による生徒の文化に親しむ豊かな心の育成	学校行事、生徒会・委員会活動及び部活動等に主体的に取り組んでいると答える生徒・保護者90%以上。	答えた 生徒 94.9% 保護者 94.0%	A	行事や部活動を中心に、様々な活動で、生徒が主体的に取り組む姿勢が見られた。今後も主体的に取り組める環境を整え、質の高い教育活動を推進したい。
		1か月に1冊以上本を読む生徒の割合70%以上。	読む生徒 50.8%	C	1か月に1冊以上の本を読む生徒が半数を超えたところではあるが、その後の数字が伸びてこない。選書やビブリオバトル等を通した更なる啓発を行う。
		学校図書館の1人当たりの年間貸出冊数4.0以上。	貸出冊数 3642冊 3.4冊/人 昨年度 貸出冊数 3436冊 3.2冊/人	B	昨年度よりも貸出ペースが多くなっている。目標冊数には、まだ及ばないが、年々、目標冊数に近づいているため、今後も読書啓発に係る試みを行う。
		全国・東海大会出場6部活動以上。	12部活動	A	運動部、文化部それぞれの部活動の活躍が結果に結び付き、成果をあげた。
		校外を対象に活動・発表の場を設けている部活動 100%。	設けた 部活動 100%	A	全ての運動部が大会に参加し、全ての文化部が浜名祭一般公開を通して発表の場を設けた。文化部半数以上はコンクール、発表会等にも参加し、書道部、絵劇部、ダンス部、写真部は地域行事にも参加した。多くの部活動が学校HPで活動状況を発信し、HP更新数に貢献した。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ	社会情勢に適合した生徒指導と安全・安心な教育環境整備を通じた生徒の自己肯定感、自律心及び社会性の育成	挨拶を心掛けたり、身だしなみに心を配ったりするなど社会のマナーを意識して学校生活を送っていると答える生徒及び保護者 95%以上。	答えた 生徒 97.0% 保護者 92.8%	A	挨拶、身だしなみなどの社会マナーを意識して学校生活を行っている生徒が多い。また、県高P連等から善行賞として3件4人が表彰を受けた。今後も当事者意識を持ち、マナーやモラルの意識の向上をさせていきたい。
		受診が必要な生徒の治療率 85%以上。	治療率 68.0%	B	昨年度よりも治療率の上昇がみられる。特に、昨年度まで、受診率が著しく低かった視力や耳鼻科の受診率の向上が見られている。学校保健委員会では生徒発表の場を設定し、生徒の社会性育成を図った。
		校内に自分の悩みや不安を話す人や機会・場所があると答える生徒 80%以上。	答えた 生徒 82.6%	A	保健室で自身の悩みを吐露することが多く、養護教諭および相談室担当が傾聴に当たり、そこから教育相談担当が必要に応じてスクールカウンセリングに繋げることができた。今後も、連携した対応を継続したい。
		学校内外の整備・美化は行き届いていると答える生徒・保護者 85%以上。	答えた 生徒 72.9% 保護者 92.8%	B	トイレ、流し場の清掃は保健委員が定期的に点検し美化に努めた。廊下、階段等の綿ほこりは取り切ることができなかった。学校全体の美化に対する啓蒙に努める。
		地震や暴風警報発令時等の登校基準や行動を把握していると答える生徒・保護者 80%以上。	答えた 生徒 73.6% 保護者 73.2%	B	天候不良時の登校基準や行動等を、絆ネットを利用して周知した。今年度は南海トラフ臨時情報の発出があり、より明確な基準等が求められたこともあった。生徒の防災意識向上に向けて更なる工夫をしていきたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
オ	広報の充実及び地域等での取り組みを通じた教育活動の周知	生徒目線を取り入れた「学校紹介動画」の作成。	生徒たち自身が本校の特徴を捉えた学校紹介動画作成した。	A	動画を生徒に作成させたことで、本校の楽しさが伝わる動画作成された。動画は、体験入学や中学校訪問時の学校紹介で使用し、校内のデジタルサイネージで来校者向けに流した。
		ホームページの毎日更新。	更新数 275 件 0.75 件/日 昨年度 更新数 364 件 1.00 件/日	B	今年度は、HPのフォーマット移行があり、新HPの立ち上げ、職員の更新方法の技術習熟に時間がかかり、更新件数が減少した。 職員のHP更新技術の習熟を進め、新HP内のコンテンツの充実させていく。
		体験入学や広報誌等が高校選びの参考になったと答える来校者 95%以上。	一日体験入学 答えた 来校者 99.2% 公開授業 答えた 来校者 83.0%	A	体験活動や公開授業に参加した保護者、中学生に対し、本校の教育活動や日頃の生徒の様子を伝えることができ、理解を得ることができた。
		校外を対象に活動・発表の場を設けている部活動 100%。(再掲)	設けた 部活動 100%	A	全ての運動部が大会に参加し、全ての文化部が浜名祭一般公開を通して発表の場を設けた。文化部半数以上はコンクール、発表会等にも参加し、複数の部活が地域行事やイベントへの参加もした。多くの部活動が学校HPで活動状況を発信し、HP更新数に貢献した。
カ	教職員の組織力向上と教育活動の合理化・効率化による活力ある運営体制の確立	令和7年度から実施する教育課程改訂案の策定。	効果的な変更を行うことができた。	A	総合的な探究の時間を3学年通して計画的に実施できるようなカリキュラムに変更をした。
		各分掌(事務部含む)及び各学年による業務改善・縮減1件以上。	9分掌中9分掌が1件以上。 3学年中全学年が1件以上。	A	全ての分掌、学年が業務改善・縮減に係る取組を行うことができた。今後も、実効性がある取組を続けていく。
		校務運営に具体的に参画したと答える事務職員 100%。	答えた 100%	A	各種インフラの使用料金等が高騰する中、事務職員の視点から教育活動に大きな影響を与えない中での経費節減、業務改革を促進した。今後も厳しい予算状況が続くため、校務運営に積極的に参加をする中で、教職員の業務効率化、費用削減を促していく。